

中 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
1	身に付けさせたい力を明確にした言語活動の設定	2
2	多様な考えを生み出す課題の設定	2
3	互いの考えを整理・比較・評価する学習活動の設定	3
III	研究の仮説	4
IV	研究の方法	4
1	調査研究	4
2	授業検討・検証授業	4
3	研究構想図	5
V	研究の内容	6
	〈指導例1：第1学年〉	6
	〈指導例2：第2学年〉	12
	〈指導例3：第3学年〉	18
VI	研究のまとめ	24
1	研究の成果	24
2	研究の課題	24

研究主題

他者の考えを主体的に聞き、 自分の考えを深める力を育成する指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査」(文部科学省)の国語に関する調査(中学校第 3 学年対象)において、「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること」(平均正答率 54.9%)が課題のある事項として挙げられている。また、「平成 26 年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」(東京都教育委員会)の国語に関する調査(中学校第 2 学年対象)においては、「話を聞き必要に応じて適切な質問をすること」(平均正答率 27.6%)が課題のある事項として挙げられている。

現在、各中学校ではスピーチやプレゼンテーション、面接などにおける効果的な話し方についての指導が行われている。その成果として、あらかじめ準備した原稿等を基に自分の考えを話すことができる生徒は多い。しかし、その一方で、各教科等の授業において話し合いをする際に、他者の考えを聞き、互いの考えを生かしながらより良い考えを再構築することには課題が見られる。これは、国語科の授業において、スピーチやプレゼンテーションのような「話すこと」の指導に重点が置かれ、「聞くこと」の指導が十分ではないことに一因があると考えられる。実際、「聞くこと」の指導においては、他者の話を的確に聞き取ることを目標にした指導は行われているが、聞き取った他者の考えを検討し、必要に応じて適切な質問をしながら情報の不足を主体的に補い、自分の考えを深めることの指導は十分に行われているとはいえない。

これらの調査結果や指導の実態の分析から、国語科の授業において生徒の思考力・判断力・表現力を育成する際に、他者の考えを主体的に聞き、互いの考えを検討することを通して、自分の考えを深められる生徒を育成する指導を充実していく必要があると考える。課題を解決するのに必要な情報を得るために適切な質問をする「主体的に聞く力」や、情報を整理したり、比較したり、評価したりしながら、「自分の考えを深める力」は、他教科の学習においても必要な力である。実生活において課題に直面した場合にも、他者の考えを主体的に聞くことによって多様なものの見方や考え方に触れ、自らの考えを見つめ直すことで、より良く課題を解決できるようになると考えられる。

これらのことを踏まえ、本研究では、「話すこと・聞くこと」の指導事項の中で、「聞くこと」の指導に焦点を当て、研究主題を「他者の考えを主体的に聞き、自分の考えを深める力を育成する指導の工夫」とし、研究を行うこととした。

II 研究の視点

他者の考えを主体的に聞き、自分の考えを深める力を、生徒一人一人に身に付けさせるための効果的な指導の工夫を示すことが、本研究の目指すところである。そこで、以下のような視点を持ち、研究に取り組む。

1 身に付けさせたい力を明確にした言語活動の設定

学習指導要領では、「話すこと・聞くこと」の指導事項として、「エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること」(第1学年)、「エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること」(第2学年)、「ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること」(第3学年)という項目が示されている。

これらの指導事項の系統性を踏まえ、各学年の生徒に身に付けさせたい力を明確にした上で、それらの力を育成するのにふさわしい言語活動を以下のように設定する。

学年	身に付けさせたい力	言語活動	設定の理由
1	他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめる力	バズセッション	小グループごとに自由に話し合っ て多様な考えを全体に報告する バズセッションの形態は、他者の 考えと自分の考えとの共通点や相 違点を整理する力の育成に適して いるため。また、各グループから の報告を踏まえて、自分の考えを 再構築させることで、自分の考え をまとめる力も育成できるため。
2	他者の考えと自分の考えと を比較し、自分の考えを広げ る力	パネルディスカッ ション	異なる複数の立場のパネリスト による討論を聞きながら、フロア として質疑応答に参加するパネル ディスカッションの形態は、自分 の考えと複数のパネリストの考え とを比較し、質疑応答をすること で、自分の考えを広げる力を身に 付けさせることができるため。
3	多様な考えを評価し、自分 のものの見方や考え方を深め る力	企画会議	小グループごとに異なる企画を 提案し、それらを評価して最も優 れた企画を決める企画会議の形態 は、多様な考えを評価し、自分の ものの見方や考え方を深める力の 育成に適しているため。

このような言語活動を設定し、学年ごとに系統的な指導を行うことで、他者の考えを主体的に聞き、自分の考えを深める力を育成することができると思う。

なお、本研究における整理・比較・評価は、次のように定義する。

整理	聞き取った他者の考えを自分の考えと比べて、その共通点や相違点を明確にし、いくつかのグループに分類すること
比較	自分の考えと比べながら、聞き取った他者の考えに賛成・反対、納得できる・できないなどの判断をしていくこと
評価	聞き取った他者の考えについて、根拠を確かめて判断したり、自分の考えや立場との違いを明らかにしたり、意義や価値を考えて自分の意思決定に役立てたりすること

2 多様な考えを生み出す課題の設定

他者の考えを主体的に聞き、自分の考えを深めるためには、話し合いの際に、必要に応じて適切な質問をしながら、聞き取った情報の整理・比較・評価をすることが重要である。なぜなら、情報を目的に応じて整理・比較・評価するなどして検討する過程で、自分の考えに根

拠を補足したり、自分の考えとは異なる考えに変容したり、それまで思い付くことのなかった新たな考えを創造したりすることになり、聞き手は自分の考えを一層深められるようになるからである。

このような学習活動を効果的に行うためには、生徒が多様な考えをもち、意欲的に参加できるような話合いの課題を設定することが不可欠である。なぜなら、自分とは異なる考えを聞くことで、「なぜ、自分とは違う考えなのだろうか」という疑問が生じ、主体的に聞こうとする意欲が高まるからである。また、自分とは異なる考えを聞くからこそ、他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理したり、自分の考えと比較したり、評価したりする必要性を生徒は実感するのだと考える。

そこで、生徒の発達段階や中学校生活の実態を考慮しながら、学年ごとに以下のような課題を設定することとする。

学年	話合いの課題	設定の理由
1	自分たちのクラスにふさわしいキャラクターを考える。	中学校に入学し、様々な行事を体験する過程で、小学生のときよりもクラスへの所属感や連帯感を強く意識するようになる第1学年では、自分たちのクラスの良さを象徴するキャラクターを考えるという課題は、一人一人の異なった思いによって多様な意見が生じるとともに、互いの考えたキャラクターを楽しみながら考えを深めることができるため。
2	仕事をする上で必要な力を考える。	第3学年に向けて進路への意識も高まる第2学年では、職場体験を経験することで、仕事に関する興味・関心が高まっている。特に職場体験での実際の経験を踏まえて、仕事をする上で必要だと思われる力について考えることは、それぞれの経験に応じて多様な考えが生じるとともに、高い関心をもって取り組むことができるため。
3	海外の姉妹都市から来る中学生に日本の良さを伝える〇〇市(区)ツアーを考える。	義務教育9年間の教科等の学習を積み重ねた3年生は、日本の良さについて、自らの経験や知識と結び付けて具体的に考えることができるようになる。それらの経験や知識を活用しながら、海外から来る中学生に日本の良さを伝えるのにふさわしい地域の名所を考えることは、地域に対する一人一人の異なった思いを込めることができ、意欲的に考えることができるため。

3 互いの考えを整理・比較・評価する学習活動の設定

学年ごとに設定した課題について話し合わせる際には、目的に応じて互いの考えを整理・比較・評価する学習活動を設定することとした。この学習活動では、単にワークシートに他者の考えをメモさせるのではなく、他者の考えの要点を付箋にメモさせる。その上で、ワークシートに付箋を貼り付けながら、互いの考えを整理・比較・評価できるよう工夫した。このような手だてによって、複数の視点による考えやその根拠を明確に捉えることができ、自分の考えに足りない点を補ったり、新たな考えへと変容したりするために必要な質問を考えることが容易になると考えた。このようにして必要な情報を補うことで、生徒は課題をより良く解決するために自らの考えを再構築できるようになるはずである。

Ⅲ 研究の仮説

本研究では、話し合い活動を通して、課題の解決に必要な他者の考えを聞き取らせ、それらを整理・比較・評価させることで、自分の考えを深める力を育成することができるのではないかと考える。そこで、次のような研究の仮説を設定し、検証授業を行っていくこととする。

—仮説—

多様な考えをもつことができる課題について話し合わせる過程に、他者の考えを主体的に聞き、互いの考えを検討する学習活動を位置付けることで、生徒は自分の考えをより深めることができるであろう。

Ⅳ 研究の方法

1 調査研究

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第 3 学年対象）や「平成 26 年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」（東京都教育委員会）の国語に関する調査（中学校第 2 学年対象）等を参考にして、東京都の中学生の国語の能力を分析する。

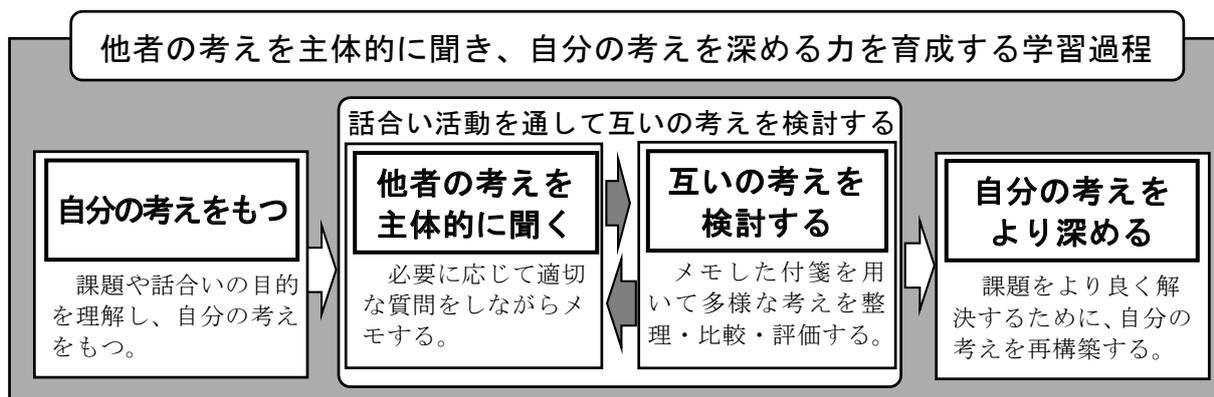
2 授業検討・検証授業

研究の視点に基づき、単元の学習において、以下のような学習活動を工夫することで、「他者の考えを主体的に聞き、自分の考えを深める力」の育成を図る。

- ① 課題に対する多様な考えを聞く際に、必要に応じて適切な質問をする学習活動
- ② 聞き取った他者の考えを整理・比較・評価するなどして検討し、自分の考えを再構築する学習活動

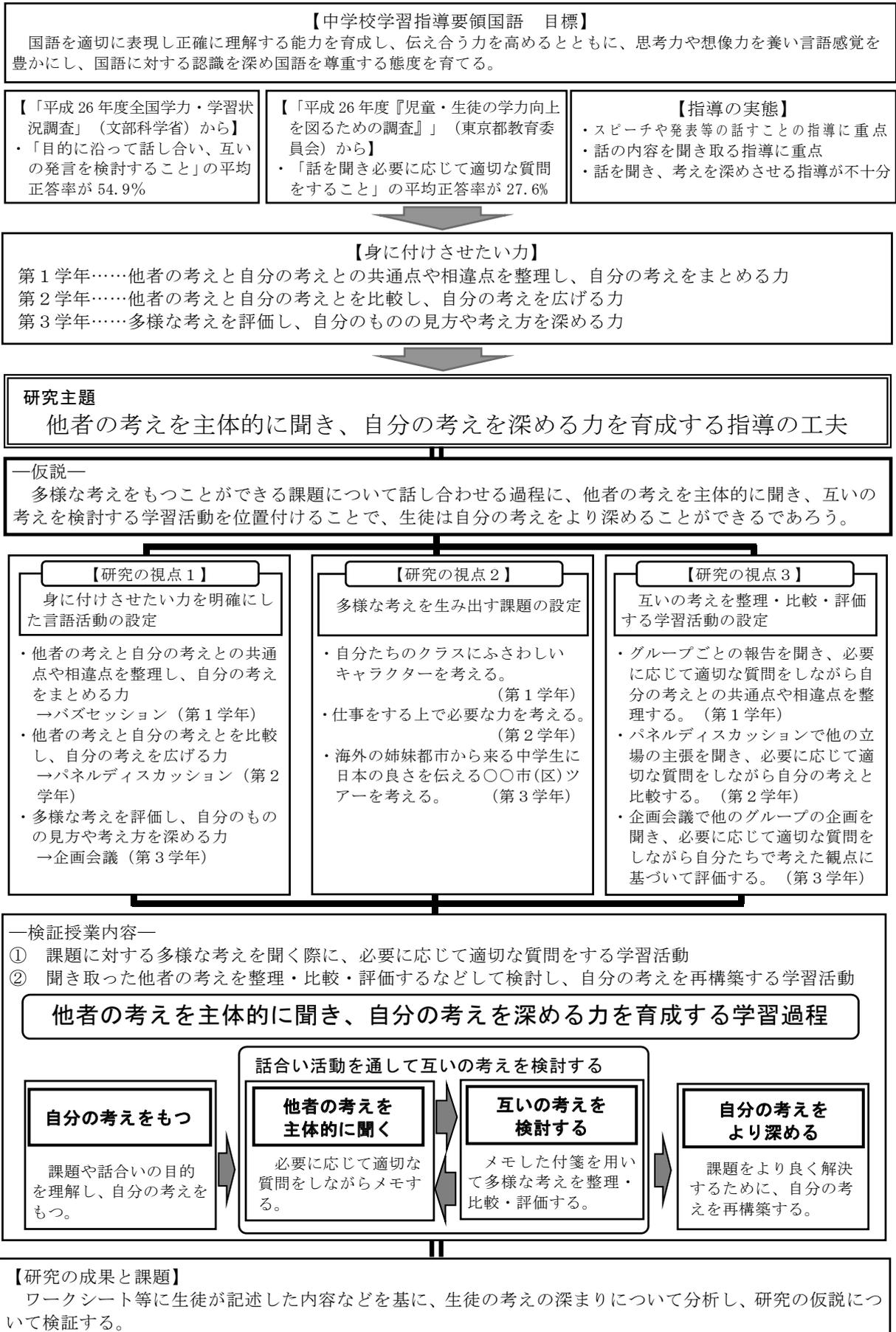
このような単元を学年ごとに設定し、授業を行った後、ワークシート等に生徒が記述した内容などを基に、成果と課題を考察することによって仮説を検証する。

〈検証する学習過程のモデル〉



※本研究では、「他者の考えを主体的に聞く学習活動」と「互いの考えを検討する学習活動」との間には厳密な順序性はないものとする。主体的に聞いた後に互いの考えを検討する場合や互いの考えを検討した後に主体的に聞く場合など、学習課題や生徒の実態等に応じて効果的な学習過程を工夫する。

3 研究構想図



V 研究の内容

＜指導例 1：第 1 学年＞ 他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめる力を育成する指導の例

1 単元名

クラスのキャラクターを話し合ってみよう

～他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理し、考えをまとめる～

2 単元の目標

聞き取った他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・必要に応じて質問しながら他者の考えを聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理しようとしている。

【話す・聞く能力】

- ・聞き取った他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめている。
(A 話すこと・聞くこと(1)エ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・事象や行為などを表す多様な語句を必要に応じて用いている。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ウ))

4 教材

- ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開 (全 4 時間)

	学習活動	指導上の留意点
第 1 時	○ 単元の課題を把握し、多様な他者の考えを整理するためのメモについて考える。	・多様な他者の考えをメモした付箋を整理する方法を身に付けさせる。
第 2 時	○ グループで話し合ってみようキャラクターを考える。	・観点を明確にして、自分たちのクラスにふさわしいキャラクターについて話し合わせる。
第 3 時	○ グループごとの報告を聞き、メモした情報を観点ごとに整理し、必要に応じて質問する。	・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら、メモした付箋を整理させ、自分と異なる考えの根拠を明らかにするなどの質問をさせる。
第 4 時	○ 聞き取った他者の考えを参考にしながら、クラスの特徴をより良く表すことができるキャラクターを考える。	・整理した他のグループの考えや根拠を基に、自分の考えを再構築させる。

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

必要に応じて質問しながら他者の考えを聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理するために効果的なメモの仕方について考える。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
○ 単元の課題を把握する。	・自分たちのクラスの良さを他のクラスの生徒に伝えるためのキャラクターについて、話し合いを通して考えるという課題を理解させる。	○ 必要に応じて質問しながら他者の考えを聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理しようとしている。 [ワークシート]
○ 学習の見通しをもつ。	・話し合いを生かして自分の考えをまとめられるよう、効果的なメモの仕方について考えることを理解させる。	
○ メモの取り方を考える。	・生徒の意見を基に、2点にまとめる。 ①短いキーワードだけをメモする。 ②記号等を用いて省略して書く。	
○ 練習課題について、自分の考えをまとめる。	・「小学生への中学校紹介」という課題について、自分の考えをもたせる。	
○ スピーチ例を聞いて付箋にメモし、必要に応じて質問しながら整理する。	・自分の考えに似ているものは、「自分の考え」の近くに貼らせる。	
○ 別の練習課題についても同様にメモを取る。	・「勉強の仕方」という課題について二つのスピーチ例を聞かせる。	
○ メモの取り方について分かったことをまとめる。	・これまでの自分のメモの仕方と比べさせる。	

第2時

① 本時の目標

自分たちのクラスの良さを表すキャラクターについて、観点を明確にして話し合う。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
○ 学習の見通しをもつ。	・キャラクターづくりの観点を明確にして、次回、各グループでキャラクターの提案をできるように準備することを確認する。	
○ キャラクターづくりの	・キャラクターづくりに必要な観点を	

<p>観点を確認する。</p> <p>○ バズセッションの形式を使い、観点に沿って話し合う。自分の考えをもつ</p> <p>○ ワークシートに、話合いの結果をまとめる。</p>	<p>挙げさせ、「形」「名前」など、五つにまとめる。</p> <p>・ホワイトボードに互いの考えを書かせ、考えを可視化させながら、話し合わせる。</p> <p>・話合いがまとまっていないときは、経過が分かるようまとめさせる。</p>	<p>○ 事象や行為などを表す多様な語句を必要に応じて用いている。〔ワークシート〕</p>
---	--	---

第3時

① 本時の目標

他のグループの報告を聞き、質問をしながらメモを整理する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 自分のグループの考えを再確認する。</p> <p>○ 代表者によるグループごとの報告を聞き、メモを取る。</p> <p>○ メモを書いた付箋を自分の考えと比較しながら、ワークシートに貼る。</p> <p>○ 必要に応じて質問をする。他者の考えを主体的に聞く</p> <p>○ 他のグループの報告も同様に行う。</p> <p>○ 貼り付けた付箋を整理し、気づいたことをメモする。</p>	<p>・次回、より良いキャラクターづくりをするために、他のグループの報告を聞き、質問をしながらメモを整理することで、参考となる考えを得るということを理解させる。</p> <p>・第1時と同様のワークシートを使用し、キャラクターに関する自分の考えを中央に書かせる。</p> <p>・ホワイトボードにイラストと名前を書かせ、代表者に話合いの結果を観点ごとに簡潔に報告させる。</p> <p>・メモした付箋を観点ごとに分け、中央に書いた自分の考えと共通している場合は中央付近に、相違している場合は中央から離して、ワークシートに貼らせる。</p> <p>・付箋に書かれたメモを見ながら、自分と異なる考えの根拠を明らかにするなどの質問をさせ、回答を付箋にメモし、ワークシートに貼らせる。</p> <p>・最初のグループと同様にメモさせ、必要に応じて質問をさせる。</p> <p>・付箋が貼られたワークシートを見直し、同じような内容の付箋は近付け</p>	<p>○ 必要に応じて質問しながら他者の考えを聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理しようとしている。〔ワークシート〕</p>

互いの考えを検討する	るなど、自分の考えとの距離を変えさせながら付箋を整理させる。	
-------------------	--------------------------------	--

第4時

① 本時の目標

聞き取って整理した他者の考えを生かして、自分の考えをまとめる。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 整理したメモから、自分のキャラクターづくりに使う情報を選ぶ。</p> <p>○ 個人でキャラクターづくりを行う。</p> <p>自分の考えをより深める</p> <p>○ グループの中でお互いの作品を見せ合う。</p> <p>○ 単元の振り返りを行う。</p>	<p>・ 前時に整理した他者の考えを生かし、キャラクターを再考することを理解させる。</p> <p>・ 前時に整理したワークシートを見直し、考えを再構築する際に役に立つと思われる付箋を選び、本時のワークシートに貼らせる。</p> <p>・ 自分の考えだけでなく、他のグループの考えを用いたり、新たな考えを加えたりしてもよいことを理解させ、参考にした他者の考えや自分の考え、その根拠について記入させる。</p> <p>・ 互いの考えが深まった部分について話し合わせる。</p> <p>・ 第2時で使用したワークシートと本時で使用したワークシートに記入した自分の考えを比較させ、気付いたことなどをまとめさせる。</p>	<p>○ 聞き取った他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめている。</p> <p>〔ワークシート〕</p>

第1時で使用したスピーチ例の原稿（2回目の課題）

場面設定：学級活動でテスト前の勉強の仕方について各自が発表する場面

<p>A： 私のテスト前の勉強の方法について発表します。テスト1週間前までは、部活動があるため、いつもどおり授業の復習ぐらいしかできません。本格的に勉強を始めるのは部活動が休みになる、テストの1週間前からです。家に帰ってから、大体4時間ぐらい勉強します。夜はいつもどおり早く寝て、朝5時に起きて2時間勉強します。家で勉強しているときに分からないところがあったら、付箋を貼っておいて、次の日、学校で先生に聞くようにしています。</p> <p>勉強は、ノートにまとめることを中心にしています。ノートをしっかりとまとめておけば、テスト直前にそれを見返すだけで復習になるので、とても便利です。</p> <p>B： 僕はテスト前の勉強は「量より質」だと思っています。そんなに長い時間は勉強しません。そのかわり、集中して勉強します。一人きりで、音楽やテレビの音が全く聞こえない自分の場所です。寝る前に、大事な部分を暗記すると、覚えやすいように思います。もし、分からないところがあったら、後で家族に聞きます。兄がいつも丁寧に教えてくれます。一つの問題集を何度も何度も解くのが僕の勉強法です。分かる問題はやらずに、分からなかった問題にチェックをつけて繰り返すようにします。</p>
--

【生徒による活動の例】

第1時で使用したワークシート

ふせんと使ってメモすると、自分の考えと他の人の考えがどれだけ似ているか、どれだけ違うかが分かる。とても良いメモの取り方だと思います。

このようにメモの取り方をすると、自分の勉強法のメリットとデメリットも分かるので、自分の考えが深まると思いました。授業以外でもこの方法を使ってみようと思いました。

今日の授業の感想を書こう。

Aさんは、どのような環境で勉強していますか。

朝、勉強することで、何か良い点がありますか。(Aさんに)

Bさんは、量より質と言っていました。一日、何時間勉強しますか。

勉強時間	A 帰る4h アケ2h	似た考えは近付けて貼る。
	B 量より質・長くない	自分の考えを中央に書く。
勉強のスタイル	教科書などにノートまとめている。英語などは声に出しながら書くのいいと思う。	教科書などで調べる。親に聞くのも良いと思うが、自分で調べた方が頭に残るから。
環境	A ノートまとめペンリ	自分の考えと異なっている考えは中央から離して貼る。
	B 1人で 音ない	
	B ねる前アanky ? → くりかえす	自分の考えと似ている考えは中央に近付けて貼る。
		Aさんのメモがないので、質問する必要があると分かる。

第4時で使用したワークシート

ふり返り

最初の班での考えと比べて、一番変化した部分は

なぜ、このように変化したかという点

私たちの班では、キャラクターを人間にするという案しか思い浮かばなかったけれど、他の班の発表を聞き、コンセプトの明るい・笑顔・元気にサルがすごくあてはまっていると思えたからです。また、笑顔のサルは、他のクラスの人にも三組の魅力を一瞬で伝えられると思いました。

キャラクターのデザイン	その他の特徴	形	名前	コンセプト	※ クラスのキャラクターを自分なりに考えてみよう。
	・いつも笑顔 ・フレンドリー	・サル	・ハッピースマイルモンキー	・明るい ・笑顔 ・元気	キャラクターの構成
参考にした意見					考えの根拠
③ 明るい・笑顔・元気					他の班の意見を聞き、「元気」だけではなく、明るくて笑顔ということも、私たちのクラスにとっても合っていたので取り入れた。
② サル					
④ フレンドリー いつも笑顔・うるさい・13才					
② スマイルモンキー (さる・明るい・いつも笑っている)					

四班の「フレンドリー」が、仲の良い三組にぴったりだと思いい、取り入れた。

サルは、コンセプト(明るい・笑顔・元気)に、すごくふさわしい動物だと思った。人間よりサルという動物をキャラクターにした方が、見た人にも一瞬でクラスの魅力を伝えることができると思ったので、取り入れた。

「ハッピー」もつけ加えた。

コンセプトと特徴で出た「笑顔」をモチーフにした。二班の「スマイルモンキー」はともども、まともでいてよかったです。参考にした。

6 検証授業の成果と課題

第1学年では、他者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめる学習活動を行った。本検証授業において、ワークシートに生徒が記述した内容を分析した結果、生徒の考えの変容について、以下のような結果が見られた（対象生徒250名）。

① 最初の自分の考えを支える根拠に付け加えが見られたもの	52.8%	※観点ごとに 変容を分析
② 最初の自分の考えとは異なる考えへの変容が見られたもの	53.6%	
③ どのグループにも見られなかった新たな考えへの変容が見られたもの	50.0%	
④ いずれの変容も見られなかったもの	11.2%	

(1) 成果

ア メモした付箋を整理する学習活動の有効性

第4時で使用したワークシートに「明るくて笑顔ということも、私たちのクラスにとっても合っていたので、取り入れた」と書いてあるが、この生徒は、他のグループの考えを取り入れ、最初の自分の考えを支える根拠に付け加えている。これは、自分の考えと似ている他者の考えをワークシートの中央に近付けて貼ることで、自分の考えを表すキーワードと類似したキーワードを取り入れやすくなり、考えを広げることができたのだと考えられる。また、類似している考えをメモした付箋を近付けて貼らせることで、多かった意見と少なかった意見が明らかとなり、意見が多かったという理由で、最初の考えの一部を変更する生徒や類似した考えのまとまりを手掛かりに、新しい考えを生み出している生徒も見られた。これらのことから、多様な考えをメモした付箋を整理する学習活動は、自分の考えを広げたり深めたりすることに対して成果があったといえる。

イ 参考にする付箋を選び直す学習活動の有効性

第4時で使用したワークシートに「また、笑顔のサルは、他のクラスの人にも三組の魅力を一瞬で伝えられると思いました。」とあるが、これは、第4時で整理したメモを見渡しながら、「自分たちのクラスの良さを他のクラスの生徒に伝えるためのキャラクターについて考える」という課題について再度考えたことにより、話合いの課題解決にふさわしい考えを生徒が選択したということである。話合いは、音声言語による考えの交流であるため、話合いの課題を常に意識しながら思考・判断・表現することが難しい。一方で、そのような流動性が新たな考えの創造につながるという面もある。本検証授業のように、話合いの後に再度、課題を意識しながら、整理したメモを見直す時間を十分に確保することで、話合いのデメリットを減らし、メリットを強め、生徒の考えを効果的に再構築させることができるようになった。

(2) 課題

全体への報告をさせる際に、報告者が自分たちの考えや根拠についてあまりにも詳細に発表した場合、聞き手がメモする情報量が増えるとともに、必要な情報を判断することが難しくなってしまうため、十分なメモを取れなくなり、必要に応じた質問もできなくなることが分かった。そこで、報告者は必要最低限にしぼったキーワードを発表するようにしたところ、聞き手は報告のメモを十分に取りることができ、その後、必要に応じて質問をしながらメモを取ることもできた。今後、目的や意図に応じて何をどのように話すかということ、話し手が自ら判断できるよう、話し方の指導を工夫することが必要である。

＜指導例 2：第 2 学年＞ 他者の考えと自分の考えとを比較し、自分の考えを広げる力を育成する指導の例

1 単元名

仕事をする上で必要な力について話し合おう
 ～自分の考えと他者の考えとを比較し、考えを広げる～

2 単元の目標

様々な立場の考えを聞き取って自分の考えと比較することで、自分の考えを広げることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・課題に対して自分の考えをもち、聞き取った他者の考えと比較しようとしている。

【話す・聞く能力】

- ・聞き取った様々な立場の考えと自分の考えとを比較し、納得できるかどうかを判断することで、自分の考えを広げている。 (A 話すこと・聞くこと(1)エ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解している。
 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ウ))

4 教材

- ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開 (全 4 時間)

	学習活動	指導上の留意点
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の課題を把握し、自分の考えをワークシートに書く。 ○ 支持する立場ごとに編成したグループで根拠について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の考えを六つの代表的な立場にまとめ、その中から自分が重要だと思ふ立場を決めさせ、その根拠を考えさせる。 ・六つの立場に生徒を割り振って編成したグループごとに、それぞれの立場の考えを支える根拠について考えさせる。
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ パネルディスカッションの準備として、自分たちのグループの根拠の補足やパネリストとして討論する相手への質問の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パネリストとして討論する相手のグループが前時に考えた根拠のメモを渡し、パネリストの役割に沿った質問や反論の仕方を考えさせる。
第 3 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三つのグループがパネリストとなり、1 回目のパネルディスカッションを行い、根拠をメモした付箋をワークシートに整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場の根拠を付箋にメモさせ、自分の考えと比べて納得できるかどうかを判断しながらワークシートに貼らせる。

第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3時と同様に、2回目のパネルディスカッションを行い、メモした根拠をワークシートに整理する。 ○ メモを基に、他者の意見と比較しながら自分の考えを再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目のパネリスト担当のグループとフロア担当のグループを入れ替えて行う。 ・ 第1時の自分の考えを振り返らせ、考えが広がっていることを実感させる。
-----	--	--

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

仕事をする上で必要な力として何を身に付けたいか、職場体験などを基に自分の考えをもつ。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の課題を把握する。 ○ 職場体験など、これまでの進路学習を踏まえ、仕事をする上で必要な力について考える。 ○ 各自が考えた力を六つにまとめ、その中から「中学校時代に身に付けたい力」を一つ選び、その理由をワークシートに書く。 自分の考えをもつ ○ 六つのグループに分かれ、各グループの考えを支える根拠について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場体験を終えた今、仕事をする上で必要な力について考えを広げ、自らの進路に対する意識を高めるために、パネルディスカッションを行うことを理解させ、学習の見通しをもたせる。 ・ 仕事をする上で必要な力は何か、職場体験などの進路学習等を踏まえ、ワークシートに書き出させる。 ・ 必要に応じて、近くの生徒同士で相談させる。 ・ 各自が考えた力を発表させ、「行動力」、「理解力」など、六つにまとめる。 ・ 職場体験の経験や進路学習等で学んだことを基に、根拠を明確にして書かせる。 ・ 同じ力を選んだ生徒でグループを構成するが、必要に応じて人数調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に対して自分の考えをもとうとしている。 〔観察・ワークシート〕

第2時

① 本時の目標

自分の立場の考えを支える根拠について、異なる立場の意見や質問を想定しながら話し合う。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時の見通しをもつ。</p> <p>○ パネルディスカッションで討論の相手となるグループに対する質問や自分たちのグループの根拠などについて話し合う。</p> <p>○ グループごとに、パネルディスカッションのリハーサルを行う。</p>	<p>・パネリストとして他の立場と討論する役割の重要性を理解させ、事前の準備が重要であることを確認する。</p> <p>・相手から質問されることを想定して回答を考えさせるとともに、相手となるグループが前時に考えた根拠のメモを渡し、相手の立場の根拠についてフロアが理解を深められるような質問の仕方を考えさせる。</p> <p>・パネルディスカッションの目的を踏まえ、パネリストとして聞き手を配慮した話し方を考えさせる。</p>	<p>○ 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p>

第3時

① 本時の目標

必要に応じて質問しながら聞き取った様々な立場の根拠と自分の立場の根拠とを比較する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時の見通しをもつ。</p> <p>○ グループの代表者は、パネリストとして、自分の立場の根拠を説明し、互いに討論する。フロアの生徒は、パネルディスカッションを聞きながら、根拠を付箋にメモし、ワークシートに貼りながら整理する。</p> <p>互いの考えを検討する</p> <p>○ パネリストによる討論の後、フロアの生徒が質問や意見を発表し、全体で討論する。</p> <p>他者の考えを主体的に聞く</p>	<p>・多様な立場の根拠を聞き、自分の考えを広げることが理解させ、そのためにメモが重要であることを確認する。</p> <p>・パネリストの発表の後には、フロアの生徒がメモを整理する時間を設ける。</p> <p>・メモした付箋の内容が納得できる場合はワークシートの上の方に、納得できない場合は下の方に貼らせ、納得できない根拠については、より具体的な根拠を求めたり、対立する根拠を示したりしながら、質問させる。</p> <p>・パネリストからの回答に納得できた場合には、付箋を動かし、自分の考えの変化を明確にさせる。</p>	<p>○ 聞き取った他者の考えと自分の考えとを比較しようとしている。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p>

第4時

① 本時の目標

パネルディスカッションを通して聞き取った他者の考えと自分の考えとを比較することで、自分の考えを広げる。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時の見通しをもつ。</p> <p>○ 1回目と同様に、2回目のパネルディスカッションを行う。</p> <p>○ 六つの立場の根拠をメモしたワークシートを見直しながら、他の立場の根拠について振り返る。 互いの考えを検討する</p> <p>○ 仕事をする上で必要だと思う力について、考えをまとめる。 自分の考えをより深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のパネルディスカッションを振り返らせ、良い質問の仕方などを確認する。 ・前時と本時のパネルディスカッションで聞き取った多様な考えを比較し、自分の考えを広げることを確認する。 ・1回目のパネリスト担当のグループとフロア担当のグループを入れ替える。 ・六つの立場の根拠を一度に見渡し、自分の考えの根拠と類似しているものを確認させるとともに、納得できるかどうかについても再考させ、必要に応じて付箋を貼り直させる。 ・様々な根拠をメモした付箋の中から自分の考えの再構築に役立つものを選ばせ、まとめのワークシートに貼らせる。 ・第1時の自分の考えと比べながら考えさせる。 	<p>○ 聞き取った他者の考えと自分の考えとを比較しようとしている。 〔観察・ワークシート〕</p> <p>○ 聞き取った様々な立場の考えと自分の考えとを比較し、納得できるかどうかを判断することで、自分の考えを広げている。 〔ワークシート〕</p>

【生徒による活動の例】

第4時で使用したワークシート①

課題：仕事をする上で必要な力として、中学校時代に身に付けたい力は何か。

納得度	立場（理解力）	立場（コミュニケーション力）	立場（行動力）
納得できる	リカイ → 行動力 ミスへる Q 行動力はないと何もできない？ A 中学生でもサライゲンの行動の リカイはないで行動 → X フクザツな仕事 → すぐリカイ → コウリツup リカイカ◎ → ムダな行動か ムダなコト → コウリツup 他人の考え → リカイ → 人間関係◎ Q どうやって身に付ける？ → ドクシヨ、バンキョウ、フカンなど	ないと言シヨウ(悪) 仕事になじめる 全仕事 → 人とのかわり → コトでうまくいく リカイできない → 人に聞く 行動できない → 人にタのま 練習 → スキルup できる力 Q 人の話をリカイできない → コミュニケーションとれない？ A あいさつ、分かつやく話す力 Q すでに小学校で身に付 いている → もっとミカク	すぐ実行 → コウリツup 早い仕事 → シンライ Q シジをマチかえて行動？ A すぐやり直さ ← 行動力 とリかえせる！ 行動力 → できる → タクセイ カン Q 行動 → 失敗したら？ A すぐに次の行動バンカイ
納得できない			

第4時で使用したワークシート②

<p>(理解)カ</p> <p>3 パネルディスカッションを踏まえて、今の自分の考えを書こう。</p> <p>効率up コミュニにも アタス 身に付いている 効率悪い</p> <p>理解不足の行動はミスにつながり、かえって効率を悪くすると気付いた。 効率を上げるためには、正確に仕事を進められるようにやるべきことを十分に理解する力が大切だと思う。 全ての仕事で他人とコミュニケーションをとる必要があるが、他人と上手に関わるためにも相手のことを理解する力が大切だと思う。 私は部活で、行動力なくあいさつ、返事、言われたことをやるなどを身に付けてきた。でも、先生や先輩の指示を十分に理解しないまま行動して失敗することが多いと気付いた。だから残りの中学校生活で、しっかりと理解力を身に付けたいと思うようになった。</p>	<p>(行動)カ</p> <p>2 パネルディスカッションを聞いて自分の考えに取り入れたい根拠のメモを貼り、考えをまとめよう。</p> <p>仕事をやる上で重要なのは効率を上げること テキパキと仕事を進めることが大切 ☆ すぐ仕事にとりかかる行動力 (自分からあいさつ、相談など...) 学校生活(班の仕事、部活動)で身に付ける。</p> <p>リカイ → 行動力 ミスへる フクザツな仕事 → すぐリカイ → コウリツup リカイカ◎ → ムダな行動か ムダなコト → コウリツup 他人の考え → リカイ → 人間関係◎ Q すでに小学校で身に付 いている → もっとミカク Q どうやって身に付ける？ → ドクシヨ、バンキョウ、フカンなど Q シジをマチかえて行動？ A すぐやり直さ ← 行動力 とリかえせる！</p>
--	--

6 検証授業の成果と課題

第2学年では、他者の考えと自分の考えとを比較し、自分の考えを広げる学習活動を行った。本検証授業において、ワークシートに生徒が記述した内容を分析した結果、生徒の考えの変容について、以下のような結果が見られた（対象生徒371名）。

① 最初の自分の考えを支える根拠に付け加えが見られたもの	32.9%
② 最初の自分の考えとは異なる考えへの変容が見られたもの	49.6%
③ どの立場にも見られなかった新たな考えへの変容が見られたもの	9.7%
④ いずれの変容も見られなかったもの	7.8%

(1) 成果

ア 付箋を活用したメモを取らせる学習活動の有効性

第4時で使用したワークシート①の左上に「リカイ→行動 ミスへる」（理解してから行動すれば、仕事のミスが減る）とメモした付箋が貼られているが、この生徒は最初、この付箋を一番下（納得できない）に貼っていた。そこで、「理解できても行動力がなければ、仕事が進まないのではないか。」という質問をした。この質問に対し、「行動は必要だが、職場体験の経験から中学生の行動力でも十分に対応できると分かった。それよりも理解しないで行動して間違えることの方が問題ではないか。」という回答を得て納得し、付箋を一番上に貼り直した。このように、付箋にメモした他の立場の根拠のうち、納得できない方に分類したものを見て質問する姿が多く見られた。話合いのメモを「納得できる・できない」という観点で分類することにより、数多くある他の立場の根拠から、どの根拠について質問したらよいか明確になる今回のメモの取り方は、必要に応じた質問を考えさせる上で効果があったといえる。

イ 多様な意見を比較する学習活動の有効性

第4時で使用したワークシート②に「正確に仕事を進められるように、やるべきことを十分に理解する力が大切だと思う。」とあるが、この生徒は、パネルディスカッションを通して、「効率を上げることが大切」という自分の考えの根拠として、他の立場の根拠の方がより説得力があると気づき、自分の根拠に付け加え、立場を変えた。これは、他者の考えと自分の考えとを比較し、納得できる根拠と納得できない根拠の付箋を貼り分けることで、より妥当性の高い根拠を明確にできたためだと考えられる。このように、付箋を活用して多様な意見を比較する学習活動は、生徒の考えを広げることに効果があったといえる。

(2) 課題

考えの変容が見られない場合に共通しているのは、適切にメモを取ることができないということである。メモをほとんど取ることができなかった場合は、自分の考えとの比較もできず、考えの再構築もできなかった。また、必要以上にメモしてしまった場合は、付箋が大量になってしまい、考えの再構築の際にどのメモを生かしてよいか分からなくなり、考えの変容に結び付けることができなかった。

パネルディスカッションは、複数の立場のパネリストが討論し、フロアから不規則に質問が出される。このような複雑な話合いの際にも、しっかりと要点のみを聞き取るメモの仕方を身に付けさせる必要がある。これは第1学年の指導事項とも関連するため、第1学年からの系統的な指導の工夫を行う必要がある。

＜指導例 3：第 3 学年＞ 多様な考えを評価し、自分のものの見方や考え方を深める力を育成する指導の例

1 単元名

海外の中学生に日本の良さを伝える〇〇市（区）ツアーの企画会議をしよう
～多様な考えを聞き取って評価し、自分のものの見方や考え方を深める～

2 単元の目標

多様な考えを聞き取って評価し、自分のものの見方や考え方を深めることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

・課題に対して自分の考えをもち、聞き取った他者の考えを評価しようとしている。

【話す・聞く能力】

・多様な考えを聞き取って評価することで、自分のものの見方や考え方を深めている。

(A 話すこと・聞くこと(1)ウ)

【言語についての知識・理解・技能】

・聞き手に分かりやすく話すために、慣用句や四字熟語、和語・漢語・外来語などを効果的に使っている。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(1))

4 教材

・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全 4 時間）

	学習活動	指導上の留意点
第 1 時	○ 単元の課題を把握し、自分の考えをもつ。	・相手意識や目的意識を明確にさせ、案内する場所を考えさせる。
第 2 時	○ グループで案内する場所を決め、他のグループを説得するために必要な根拠をまとめる。 ○ 企画会議に向けて、聞き手が納得するような提案を準備し、予想される質問に対する回答を考える。	・第 1 時で決めた観点に基づいて、グループごとに異なる場所を提案するための根拠を考えさせる。 ・企画会議の目的に沿った企画の提案となるよう、グループごとに助言する。
第 3 時	○ 企画会議を行い、多様な意見を聞き、必要に応じて質問をしながら他のグループの提案を評価する。	・企画会議の目的を踏まえ、他の企画を評価するために必要な情報を引き出すような質問をさせる。
第 4 時	○ 企画会議を踏まえて再提案する企画を考え、自分のものの見方や考え方の深まりを振り返る。	・他のグループに対する質問などのメモを十分に振り返らせて、再提案を考えさせる。

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

単元の課題を把握し、海外の姉妹都市から来る中学生に、日本の良さを伝えるのにふさわしい場所について自分の考えをもつ。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の課題を把握する。 ○ 姉妹都市から来る中学生に日本の良さを伝えるために必要な要素を考える。 ○ 三つの観点を、自分が優先する順番に整理する。 ○ 案内するのにふさわしい場所をたくさん考え、観点ごとに異なる色の付箋に書き出した後、それらの付箋を順位付けし、ワークシートに貼り付ける。 ○ 案内する場所として、最もふさわしいと思う場所を一つ決め、理由を書く。 自分の考えをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「海外の姉妹都市から来る中学生に、日本の良さを伝えるとしたら、〇〇市(区)のどこを案内するか」をグループごとに考えて提案し、クラスで最も優れた企画を決めるという課題を理解させる。 ・生徒の意見を整理して、「四季」、「伝統・文化」、「食事」など、三つの観点到にまとめる。 ・一つの観点を重視して、場所を決めてもよいことを確認する。 ・必要に応じて、案内するのにふさわしい場所を助言する。 ・考えられる場所を全て付箋に書き出してから、付箋を順位付けして貼らせる。 ・ワークシート全体を見渡して、全観点の上位に入っている場所を選んだり、自分の優先する観点の上位にある場所を選んだりする方法があることを助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に対して自分の考えをもとうとしている。 〔ワークシート〕

第2時

① 本時の目標

他のグループを説得するために必要な根拠をまとめ、聞き手が納得するような提案の準備をする。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの生徒が納得できる 	

<p>○ グループで提案する場所を一つに決めるために話し合う。</p> <p>○ 他のグループの生徒を説得できる根拠を考え、まとめる。</p> <p>○ 企画会議に向けて、グループごとに提案の準備をする。</p>	<p>提案をするために必要な根拠をまとめ、予想される質問と回答を考えることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画会議で行う提案の例を実演することで、学習の見通しをもたせる。 ・第二候補まで決めさせ、各グループが選んだ場所が重複していなければ決定し、重複していた場合は第二候補を基に相談させるなどして決定する。 ・自分たちが提案する場所のどの部分を強調すると、「海外の姉妹都市から来る中学生に日本の良さを伝えることができるのか」という視点をもたせて話し合わせる。 ・2分以内で聞き手を納得させることができるような話し方を考えさせる。 ・全ての説明はせず、聞き手から質問を出させて、それに回答する方法もあることを助言する。 ・各グループの提案の不十分な点を指摘し、より良い提案にさせる。 	<p>○ 聞き手に分かりやすく話すために、慣用句や四字熟語、和語・漢語・外来語などを効果的に使っている。 〔ワークシート〕</p>
--	---	---

第3時

① 本時の目標

多様な意見を聞き、必要に応じて質問をしながら他のグループの提案の内容を評価する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 企画会議を行い、多様な意見を聞く。</p> <p>他者の考えを主体的に聞く</p> <p>互いの考えを検討する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの提案の内容を聞き取り、観点に基づいて評価することを確認し、メモの例を提示する。 ・各グループの提案や質問に対する回答の要点を付箋にメモさせ、評価しながらワークシートに貼らせる。 ・各グループに2分以内で企画を提 	<p>○ 多様な考えを聞き取って評価している。 〔観察・ワークシート〕</p>

<p>○ 評価の観点に基づいて各グループの企画を評価し、最も優れた企画の一つを選び、理由を書く。</p>	<p>案させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋にメモした情報を整理する時間を設ける。 ・生徒が、企画会議の目的や観点に沿った適切な質問をした場合には、取り上げて評価し、必要に応じた適切な質問の仕方を学級全体で共有できるようにする。 ・「姉妹都市から来る中学生に日本の良さを伝える」という目的を再確認して、評価させる。 	<p>○ 聞き取った他者の考えを評価しようとしている。〔ワークシート〕</p>
--	---	---

第4時

① 本時の目標

多様な意見を聞き、自分のものの見方や考え方を深める。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 自分のグループの発表を振り返り、改善点を挙げる。</p> <p>○ 企画会議を踏まえ、より魅力的な企画を考えて再提案のメモを作成する。</p> <p>自分の考えをより深める</p> <p>○ グループでメモを読み合い、意見を交換する。</p> <p>○ 単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画会議を踏まえ、再提案する企画を考え、自分のものの見方や考え方を深めることを確認する。 ・他のグループの考えを踏まえて、自分のグループの企画について振り返り、改善点を挙げさせる。 ・企画会議で提案した場所と同じでもよいし、別の場所に変えてもよいことを確認する。 ・高く評価した他のグループの考えを取り入れるよう助言する。 ・互いの考えが深まった部分について質問や助言をさせる。 ・企画会議の前後で、自分のものの見方や考え方が深まっているかを確認する。 	<p>○ 聞き取った多様な考えを評価することで、自分のものの見方や考え方を深めている。</p> <p>〔ワークシート〕</p>

【生徒による活動の例】

第3時で使用したワークシート

不要な情報	観点③ 食事	観点② 四季	観点① 伝統	評価
<p>英語←英語</p> <p>ショッピング</p>	<p>すし</p>	<p>イチョウ</p>	<p>郷土産物の売り</p> <p>おはやし</p> <p>きもの</p>	A
	<p>フードコート</p>		<p>青少年フェス</p>	B
		<p>イベント</p>		C

(二)班 案内する場所 (ショッピングセンター)

第4時で使用したワークシート

不要な情報	観点③ 祭り	観点② 立地	観点① 四季	企画名・案内する場所
<p>②企画会議の前後の自分の考えを振り返り、書こう。</p> <p>私は最初、くじら公園を提案することを考えた。しかし今は、熊野神社を提案することを考えている。なぜなら、最初は、自分で調べたくじら公園と一緒にスポーツをしたり、花火大会に案内したりする企画を考えたが、それでは日本の良さを十分に伝えられないと思ったからだ。四班は調べたことだけでなく、自分達の経験を基に日本の良さを伝える企画を考えていた。そこでもう一度考えてみたら、自分の地元にある熊野神社がふさわしいと気付いた。私が伝えたい日本の美しい四季がよく伝わるし、外国人の中学生でも楽しめるお祭りを一年中行っていて日本の伝統文化の良さも十分に伝えられるからだ。</p>	<p>春祈禱 → 4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獅子舞 (東京都無形文化財) ・衣装が華やか、おはやし <p>夏祭り → 7月、8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おみこし ・町全体が盛り上がる ・大人も子供も楽しむ ・祭りの前には盆踊りの練習 → 華やかな舞 <p>収穫祭 → 10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餅つき → 食べられる ↳ 12月、2月などにも <p>正月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お札の配布 ・夜から行列 <p>節分 → 2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆まき ・カラオケ大会 	<p>最寄駅から徒歩15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥多摩街道にも近い ↓ 飲食店やコンビニも近くにある <p>広い境内</p> <ul style="list-style-type: none"> ↓ 小学生が遊んでいる ↓ 一緒に遊べる <p>近くにワサビ田</p> <ul style="list-style-type: none"> ↓ 市のきれいな水、湧き水 ↑ 日本の良さ 	<p>春 → 桜、夜桜、花見</p> <p>夏 → 大イチョウの緑、木陰</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳ 樹齢400年 <p>秋 → 紅葉</p> <ul style="list-style-type: none"> 大イチョウ → 銀杏拾い どんぐり拾い <p>冬 → 雪景色</p> <p>* 観点③の祭りを通して四季を感じることもできる。</p>	<p>企画名・案内する場所</p> <p>日本の美しい四季、楽しい四季</p> <p>熊野神社</p>

①第一回企画会議を踏まえた上で、再提案する企画を自分で考え、根拠をメモしよう。

6 検証授業の成果と課題

第3学年では、多様な考えを聞き取って評価することで、自分のものの見方や考え方を深める学習活動を行った。本検証授業において、ワークシートに生徒が記述した内容を分析した結果、生徒の考えの変容について、以下のような結果が見られた（対象生徒 242 名）。

① 最初の自分の考えを支える根拠に付け加えが見られたもの	21.9%
② 最初の自分の考えとは異なる考えへの変容が見られたもの	51.1%
③ どのグループにも見られなかった新たな考えへの変容がみられたもの	16.0%
④ いずれの変容も見られなかったもの	11.0%

(1) 成果

ア 多様な考えを聞き取って評価する学習活動の有効性

第4時で使用したワークシートに「私は最初、くじら公園を提案することを考えた。しかし今は、熊野神社を提案することを考えている。」と書いてあるが、この生徒は、企画会議を通して、どの企画にも見られなかった新たな考えへと変容した。これは、「四班は、調べたことだけでなく、自分達の経験を基に、日本の良さを伝える企画を考えていた。」とあるように、他のグループの考えを、「日本の良さを伝えるという課題に正対しているかどうか」という観点から評価することで、課題を踏まえることの重要性に気付き、自分の考えを再検討したためである。このように、多様な意見を聞き取って評価する学習活動は、自分のものの見方や考え方を深めることに対して成果があったといえる。

イ 必要に応じた質問をする学習活動の有効性

第4時で使用したワークシートに「近くにわさび田」と書いてあるが、これは、第3時で他のグループが提案した場所である。このグループに対する質問の答えとして「きれいな水が日本の良さを伝えることになる」というものがあつた。作品例の生徒はこのメモを生かして、自分の根拠に付け足している。このように必要に応じて質問した回答のメモを、質問者以外の生徒が活用し、自らの考えを深めている様子も見られた。話し合い活動において主体的な質問をさせ、メモを活用させることが、学級全体の生徒の考えを深めることに有効であったといえる。

(2) 課題

メモに基づいて他者の考えを評価する活動を行う際に、ほとんどの考えに対して納得できるという良い評価にしてしまう傾向が強かった。そのため、第4時で考えを再構築する際に、どの考えを取り入れてよいか分からなくなり、結果的に自分の考えを変えられないという状況も見られた。これは、他者の考えを評価する際に、その根拠を質問することはできても、その根拠の信ぴょう性や客観性、根拠と主張の整合性まで吟味するような質問ができなかったことに原因があると考えられる。今後は、他者の考えの根拠の論理的な整合性や信ぴょう性まで検討するために必要な質問をできるように、説明的な文章を読む学習や論理の展開を工夫して文章を書く学習の指導などと関連を図りながら、指導の工夫をしていくことが必要である。

VI 研究のまとめ

本研究では、「他者の考えを主体的に聞き、自分の考えを深める力を育成する指導の工夫」を研究主題とし、仮説に基づき検証を行った。以下、研究の成果と課題をまとめる。

1 研究の成果

(1) 多様な考えを聞き取り、付箋にメモをさせる学習活動の有効性

聞き取った内容をメモした付箋を動かしながら、整理・比較・評価する学習活動を工夫したことにより、自分とは異なる考えの根拠について詳しく聞き出そうと、生徒が主体的に質問する様子が多く見られた。これは、共通点・相違点や納得できる・できないという観点で、付箋を分類させたことにより、自分とは異なる考えや根拠、納得できない考えや根拠が視覚的にはっきりと捉えられるようになり、自分が何について質問したらよいかを自覚できるようになったためだと考えられる。この結果、自分とは異なる考えについても十分に検討することになり、生徒は自らの考えを広げたり深めたりすることができたといえる。

(2) メモを活用して考えを再構築する学習活動の有効性

話合いの後に、聞き取った他者の考えを整理・比較・評価したワークシートを基に、自分の考えを再構築させる学習活動を工夫したことにより、他者の考えや根拠と自分の考えや根拠とを結び付けながら、より納得できる考えを再構築することができた。これは、ワークシートを見直すことで、自分の考えに近い考えや根拠、納得できる考えや根拠を視覚的にはっきりと捉えらえるようになったため、どの考えや根拠を自分の考えに取り入れたらよいかが明確になったためだと考えられる。また、ワークシートを見直しながら、再度、話合いの課題や目的を確認させたため、話合いの目的や意図にふさわしい考えや根拠をしっかりと選び直すことができたためだと考えられる。

以上のことから、話合いの際に付箋等を活用して聞き取った内容を可視化して整理・比較・評価する学習活動を適切に位置付けることが、互いの考えを生かしながらより良い考えを再構築させることに有効であるといえる。

2 研究の課題

(1) 生徒の発言や質問に対する即時評価の工夫

「話すこと・聞くこと」の指導では、実際に話し合っている生徒の発言自体が、生きた教材となる。また、音声言語はその場で指導しなければ、消え去ってしまう。そのため、話合いの課題解決につながる適切な質問を生徒が発言した場合は、その場で取り上げ、簡潔に価値付ける必要がある。一方、適切な質問が生徒から出ない場合は、教師がモデルを示す必要がある。他者の話を主体的に聞き、考えを深めることができる生徒を育成するには、このような即時評価を適切に行う工夫が必要である。

(2) 付箋を使用したメモを考えの再構築に結び付けるための工夫

他者の根拠について検討する際には、話合いの目的に沿って判断する必要がある。しかし、話合いの目的よりも自分の思い入れや好き嫌いなどの感情的な基準で判断している場合も見られた。話合いの目的に沿って最適な判断をするという姿勢を生徒が身に付けられるよう、話合いの課題を端的に提示する工夫や話合いの目的を常に意識させるワークシートや板書の工夫などが必要である。

平成27年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 国 語

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
昭島市	福 島 中 学 校	教 諭	◎ 水 卷 英 司
港 区	御 成 門 中 学 校	教 諭	國 松 高 志
新 宿 区	落 合 中 学 校	主 任 教 諭	馬 場 章 夫
文 京 区	第 十 中 学 校	教 諭	原 田 涼 子
江 戸 川 区	南 葛 西 第 二 中 学 校	教 諭	草 場 有 希 子
江 戸 川 区	西 葛 西 中 学 校	教 諭	小 林 純 子
八 王 子 市	浅 川 中 学 校	教 諭	松 枝 香 久 美
福 生 市	福 生 第 二 中 学 校	主 任 教 諭	古 川 裕 平
武 蔵 村 山 市	第 三 中 学 校	教 諭	田 中 森 恵

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 鈴木 太郎

平成27年度
教育研究員研究報告書

中学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成27年度第197号〕

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社

リサイクル適性[®]

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。